

教育理念

キリスト教の精神に従い、学校教育法の趣旨に基づいた教育を行う。
感謝の気持ち、祈る心を大切にし、自分のしたことと向き合うことや、間違っただけをしたら謝ること、相手を許すことを伝え、自己責任を持てる人になるように理念を掲げ、教育する。
遊びを通して探求心を育て、人とのかかわりの中で自分の思いを友達に伝え、自他を認め、一人ひとりを大切に教育し、自己肯定感を育てる。

教育目標・方針

- 健康な体と心を養います。
- 命を大切にする心を育てます。
- 互いに思いやる優しい心を育みます。
- 基本的な生活習慣・態度の基礎を培います。
- 一人ひとりの個性を伸ばし、感性を豊かに養います。

本年度の学校評価の具体的な目標や計画

- 園児1人ひとりが園生活を自主的に過ごし、様々なことに興味関心を持って取り組めるようにする。
- 自分の思いを伝え、友達の思いを聞くことができるよう導く。
- できないことができた時の達成感を味わい、自信につなげていく。

取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自己肯定感を育てる	できないことをできるように一緒に取り組み、自信を持てるようにし、自己肯定感を育てる。自分の意見を友達に伝えられるように、目や心、耳で気に留め、援助していく。
時間配分を考えて、保育をしていく	やるべきことばかりに追われることがなく、また、やるべきことができない状況を作らないためにも、必要なこととそうでないことをそれぞれ考えて時間配分をし、行動していく。また、獲得したいことは毎日の繰り返しの指導で身につけさせることができるように、時間配分を考えていく。
保護者へのアピール	教育上で実践していることが何を育てることにつながっているのかを明確にし、保護者に端的に伝わる努力をしていく。
子どもの視点を抑える	子どもの視点を意識し、何に興味関心があるかを具体的に引き出し、環境を整え、カリキュラムを見直し、興味関心を広げる配慮を行っていく。

- 「うんどうノート」をチェックする。
- 保護者に何に力を入れているのかわかるように見出しをつけて伝えていく。園の教育理解を図る。
- 教員同士の声の掛け合い、チーム絆を大切にする。

評価項目の達成および取り組み状況

保育の在り方

- A
- コロナ感染予防対策が緩み、カレー作りやパン作りの再開、小学校校庭で運動会開催などができるようになり、子どもたちの経験を広げることができた。
 - 下園後に子どものことやその日の保育について活発に話しあったり、日誌に翌日やるべきことの記載をしたり、製作は一人ひとりの進捗状況をメモにしたりし、コロナなどで欠勤した時に縦割り保育などして教員不足をカバーすることができた。
 - 学年間での交流の時間を多く持ち、縦の関係がより親密になり、年上への憧れを持ち、学年を超えて遊ぶ姿が見られるようになった。
 - 準備体操の筋肉の曲げや伸びに着目し一人ひとり丁寧に指導していき怪我をしない身体づくりに取り組み、身体の可動域が広がった。
 - 絵本の時間を楽しみにし、集中して聞く姿が見られている。
 - 年少児は、片足跳びを隙間時間に行っていたこともあり、片足跳びができる子どもが増えた。
 - コロナ禍の乳児期を育ってきて、外部や人とのかかわりの経験があまりない子どもが入園してきた。様々なことに意欲があまりなく、体力もなかったが、一人ひとりに寄り添い、体験や経験を通して3学期には歌うことが好きになり、体操も皆で一緒にリズム遊戯をすることができるようになった。
 - 外国人の方と触れ合うことではじめは「こわい」と近づくことができなかったり、関わり方がわからず、いざ近づいても目が合うとそこからいなくなる子どもが多かった。徐々に英語あそびの時間で得られた英語を使って話しかけに行くことができたり、怖がらなくなったりするようになった。来年の英語あそびは外国人の方に月一回教わって行く予定で、今後どのように学びが広がるか見ていきたい。
 - 木の先生に幼稚園に来ていただき、木について学んだ。地球の環境においてとても大切なものであることを感じさせることができた。箸作りを通して、木にやすりをかけ、香りや肌触りなど触感を大切に根気強く作らなければ完成できないことを知り、作り上げる喜びを感じた。年長児はおもちゃ美術館やハグハグなど、木の玩具がたくさんあるところに遊びに行き、香りや手触りの良さ、見立てやイメージなどを膨らませて楽しむこと、これなら作れるんじゃないかと思う気持ちを持つことができた。
 - コーラスサークルのお母様の歌声を聴き、一緒に歌い始めてしまうほど歌うことの楽しさを感じられた。打楽器音楽のコンサートで様々な楽器があること、音の美しさや楽しさを感じることができ、実際に音を出させてもらい、喜びが広がった。誰かが遊びに来ると歌を歌ってお礼をしたいという気持ちを持つようになった。

教師としての資質、保育の質向上

- A**
- 今年度は杉並区私立幼稚園連合会の主題別研修に参加し、ペープサートやパペットなどを作り、その発表も行った。
 - 杉並区の就学前支援係が行っている巡回指導をお願いし、むさしの発達支援センターの森山徹先生に指導していただき、子どもの理解を深めることができた。また、今の時代に幼稚園に求められているものなどを考え直すこともできた。
 - 昨年度保護者向けに講演していただいた桜美林大学の小関俊祐先生に依頼されたHGPI:日本医療政策機構の教員のメンタルヘルスの研究に協力をした。
 - 自主的に子ども主体で生活できるよう、一人ひとりに自信をつけさせ、自己肯定感が高まるように「できた」という共感を多く持ち、また、一人ひとりの良いところに目をむけて互いの良さを認め合うことも大切にした。
 - お互いの保育を見合う目的で保育研究を行った。今年度は水組のみになってしまったが、来年度は3クラス行っていく。保育を客観的にみることによって自分が足りないことに気づいたり、よりよくするためにはどうすべきかを考えたりすることができた。

保護者への対応

- B**
- 子どもたちの活動を写真で伝え、現状を理解してもらう努力をしている。今年度からはhugnoteというアプリを使って日誌を携帯電話で読めるようにした。
 - 携帯電話に日誌を送ることによって、緊急連絡やお知らせの見落としが保護者にあり、また、うまく受信できないというトラブルもあることが判明したが、なかなか改善されなかった。
 - 出欠はアプリを使ってできるようになったが、具体的な欠席理由が分からず、心配も多かった。
 - 保護者から話されたことは教員間で共有して、全教員がそれを踏まえての保護者対応をするようにした。

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

A

- 一人ひとりに丁寧な対応を、一つ一つ丁寧な指導を心がけてきた。それにより、楽しんでいけばよいと思えた体操も、丁寧に指導して身体を使えるようにしていこうと考え方を切り替えたり、苦手意識やできないと思うことを毎年のカリキュラムではなく子どもの実態に合わせてカリキュラムを変えたりし、一つ一つの経験から自信をつけさせることができた。
- 自信をつけたことで、園生活を楽しむことができるようになっていき、主体的に行動できるようになった。
- 伝えたいことや言いたいことを保育者が言葉にして伝え、自分の思いを人に伝えられるようになってきた。表情を見て友達の思いに気付ける子どもと、自分の思いだけが先走って相手を攻撃する、嫌がるのに言い続ける姿もあった。言われた子どもの気持ちを伝えたり、その言葉を言われたらどんな気持ちができるかなど考えてみたり、言葉の意味を共に考えることもあった。意味も分からずに発している言葉もあるのでこれからも丁寧に指導していきたい。
- レックススポーツと協力して、子どもの運動する種目の目標を明確にし、一人ずつのうんどうノートを作成し、できたことにシールを貼り、励みになっていた。
- 労働安全衛生総合研究所の方と東京都から派遣された社会安全研究所の方と園の安全チェックを行い、安全点検に日ごろから力を入れていることを称賛していただいた。また、指導された、キウイ棚のサビついた金具の取り換え、園庭水道の角をガードでカバーすることを早急に対応し改善した。園が安全ということにより、子どもも安心して園生活が過ごせる。
- 保護者からのアンケート結果を教員で話し合い、改善すべき点はすぐに改善していることに加え、日常的に反省点や改善点についても話し合いの場がもたれている。

-
- A 十分に達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが成果が十分ではない
 - D 取り組みが不十分である
-

今後、取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自己肯定感を育てる	できないことをできるように一緒に取り組み、自信が持てるようにし、自己肯定感を育てる。
幼稚園の教育の柱を共有していく	なぜ礼拝するのか、なぜこういうことをするのかを根本のところで親や子どもと共有できるように伝えたり指導したりしていく。
保護者へのアピール	保護者に保護者会や講演会に参加していただけるよう努力する。幼稚園の教育方針を明確に打ち出していく。
子どもの視点を抑える	子どもの視点を意識し、何に興味関心があるかを引き出し、環境を整える。カリキュラムを見直し、興味関心を伸ばせる配慮を行っていく。

令和5年度 幼稚園教育目標

- 身体の能力を高める。
- 祈りのある生活の中で育まれる、目に見えないものの大切さを伝えていく。

※昨年度、給食弁当の意見をいただき、12月からコンビニ弁当の利用を可にした。

学校関係者評価委員の方の意見

- 卒園された方は、その時の幼稚園の記憶のままで、預かりが延長になったことも長期の預かりを始めていることも知らない。卒園された方が園の現状を知る方法で何か良い点はないか、考えるとよい。
- インスタとフェイスブックをはじめてみたらいかがか？

令和4年度 学校関係者評価報告書

令和5年3月27日に学校関係者評価委員会を開催しました。
会議において詳細な令和4年度自己点検評価表を回覧し、評価委員との意見交換を行いました。

■本年度の重点課題

- ・園児1人ひとりが園生活を自主的に過ごし、様々なことに興味関心を持って取り組めるようにする。
- ・自分の思いを伝え、友達の思いを聞くことができるよう導く。
- ・できないことができた時の達成感を本人が味わい、それを自信につなげていく。

(達成できたこと)

- ・今年は一つ一つを丁寧に子どもと関わっていくことを心がけ、子どもがやれたという喜びを大切にできた。
- ・子どもに自信を持たせ、自己肯定感を高め、自主的に園生活が過ごせるように支えた。一人ひとりが自分の意見や思いを伝えることができるようになり、様々な気持ちに寄り添い、集団の一員としての態度や行動を伝えられた。

(これからの課題)

- ・子どもが自分の体をうまく使えないところから、大きな怪我につながる事故が増えている。自分の体を支える、曲げる、伸ばすなどの基本動作を丁寧に伝え、筋力をつけ、瞬発力や俊敏性が身につくように身体を育てていく。身体を育てていくことは意志を育てることにもつながっているため、身体能力を高めることを通じて、必要な資質、能力を高めていく。
- ・キリスト教の幼稚園だから祈るということだけでなく、祈りの言葉を大切に子どもに伝えていくことや、祈る心、行動と行動の間にある静寂をもたらせる「間」に伝えたいこと、育てたいことが伝わるように導いていく。(安心や安全が保たれる間、人を思う間、自己欲の抑制ができる間)

■評価項目達成および取り組み状況

■具体的な目標の総合的な評価結果

■今後取り組む課題

■学校関係者の評価